授業づくり研修講座　実践レポート

座間中学校　高橋泰代

単元名　第２学年「短歌に親しむ―短歌のリライトをしてみよう」

実践のポイント（工夫）

　・短歌に親しませるため、多くの短歌に触れさせる。

　・短歌のおもしろさ、奥深さを分からせるため自分の選んだ短歌を物語に書き換えさせる。

　・お互いの作品を交流させることにより、他から学びより良い作品を作らせる。

一時間目

1. 学習の流れを知る（単元についての説明）。
2. 短歌について、その歴史、形式を知る。

二時間目

1. 教科書や便覧の解説を参考にし、短歌を読み味わう。

三時間目

1. リライトの見本、手順を参考に、教師の選んだ、２０首の中から一首選び、リライトをする。

四時間目

1. お互いの作品を交流し合う。

五時間目

1. 講評
2. 学習の振り返り

リライトの見本（ゴールはこれです）

　「観覧車回れよ回れ想ひ出は君には一日我には一生」

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　栗木京子

　親友のよし子と私は暑い夏の日、部活の休みを利用して、横浜のみなとみらいを楽しんでいた。白い入道雲が海の向こうにもくもくとわき上がっていた。観覧車に乗ろうとしたそのとき、私たちの前に並んでいたのは幼なじみの裕太だった。

「よっ、久しぶり！」

「おまえたちも来てたのか。せっかくだからいっしょに乗ろうぜ！」

「じゃあ、俺とおまえ。Ａ助はよし子と乗れよ。」

（えー。うっそー。）こころの中で私は叫んだ。

偶然が生んだ一生の想い出。観覧車よ！ずっと回り続けて！

　さわやかな裕太の横顔を見ながら祈る思いの私だった。

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　高橋田　泰

振り返り

・どの短歌をリライトするかを考える段階でたくさんの短歌に触れており、短歌を身近なものに感じさせることができた。

・自分で選んだ作品をリライトするために、物語に合った語彙を探す作業が必須となり新たな語彙を獲得することができた。

・他の作品から学ぶことも多く、友人の新たな一面の発見にもつながり楽しい単元になった。

生徒の振り返りより

短歌のリライトをやってみて、最初の頃はリライトなんてやったことがないし、絶対に難しいだろうと思っていました。でも作っていくと自分で物語を作るのが楽しくなってきました。他の人のも聞けて先生が指定した以外のをやっている人がいて、とても面白い感じになっていてとても面白かったです。

一組　Ｔ君

代表者や班の人のリライトを見て、おもしろい表現があったり、あやめさんのように、設定が細かかったり、描写をうまく使っている人もいて今回の授業では、たくさんの表現ととらえ方を学べたと思う。

　一組　Ｓ君

私はリライトをやる時、自分と同じくらいの年の子を主人公にしてやっていたけれど代表作品の中には「研究員」「母親」「若い妻」などにしていて「こういう見方もあるんだな」と勉強になりました。今後に生かしていきたいです。　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　一組　Ｍさん

―略―　今回は、自分をどのような人物にするのか、そして誰を登場させるのか、というところで工夫している人が多かった。もちろん話の内容も短い文章の中でよくまとまっていて聞いている人がわかりやすかった。描写が細かかったので、頭の中に風景やイメージが浮かびやすくなっていたりして前の授業でやったこともしっかりと生かされていてよかった。もっとたくさんの人の作品を聞いてみたくなるくらい、興味深く面白かった。私も、もう少し印象に残る分を作りたいと思った。

一組　Ｔさん

―略―内容がとても深いと感じたリライトがある。それは夢佳さんの作品です。あの短歌からここまで内容が広げられてびっくりしました。いい勉強になりました。

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　三組　Ｈ君

　　　生徒作品より

　細胞の　なかに奇妙な　構造の　あらわれにけり　夜の顕微鏡　　　永田　　紅

　私は丘の上の研究所に勤めている研究員だ。毎日毎日顔もわからない相手の為に新薬を作る日々。正直言うと終わりの見えないこの研究に少しまいっていた。ある日、いつものように残業をしていた私は外の空気が吹いたくなり庭に出た。街灯もないこの田舎町の空気が私は少し好きだった。ふと空を見上げてみるとさっきまで見ていた顕微鏡と同じ奇妙な構造の何かが見え一瞬驚いた。「ああ、星か。」とつぶやき、私は研究所に戻った。　　　　　一組　Ａさん